

特許紹介

第26巻 第5號 昭和15年5月

谷積用間知石代用コンクリートブロック

(特許第134199號 發明者 菊地東造)
(特許権者 旭コンクリート工業株式会社)

中央ブロック (a) と其の兩側に接して斜下方に傾く如き 2 個の側方ブロック (b) (c) とを恰もアーチ形に組合せ、此等 3 個のブロックに接する如き 1 個の補助ブロック (d) を其の下に嵌合状に組合せ、かゝる 4 個宛 1 組のブロックの



組合せを左右及上下の方向に順次 (圖-1) に示すやうに重積したものである。中央ブロックと左右ブロックはアーチ形に組合せたるが故に左右より加はる方に對し能く均衡を保ち、補助ブロックは其のアーチ内にありて主力には與らず、震動又は地盤の狂ひに備へるもので水抜孔を穿ち、或は大なる空洞を設けて柳其の他の樹木の挿入に便ならしめる事も出来る。

圖-1.

低地改良装置

(特許第134184號 特許権者)
(發明者) 山本伊三郎

水害の虞ある低地を改良して沃土たらしめんとする目的を以つて考案したものである。低地外縁に堤防 (10) を築造し、其の内部を多數の畦畔を包容せる堤防 (5) (5) により段々に區劃 (6) (6') (7) (8) (8') し、以つて水量を上下に分擔せしめ、害水をして外水上昇せる場合でも其の上段部の所謂水壓優勢なる部分より順次外部に排水させ、上流よりの降水は高地を辿つて設けた用水兼排水路に沿ひ放流するやうにしたものである (圖-2)。

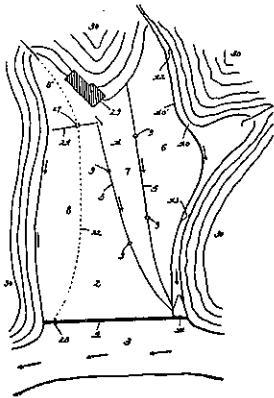


圖-2.

踏切遮断杆自動開閉装置

(特許第13431號 發明者 橋本茂太郎)
(特許権者 日本踏切工業株式会社)

遮断杆の降下の際踏切を通過することが出来ずして遮断杆と衝突したる時には、遮断杆を再び起せしめた後時間を置いて再び下降するやうにしたもので、之に依つて通行者通過車輛が踏切内に閉ぢ込められることを防止したものである。

コンクリート用竹筋

(特許第134261號 特許権者)
(發明者) 植田謙三郎

自然乾燥せしめた丸竹を縦方向に半割したもの 3 個を (圖-3) のやうに配置し、これを一定間隔毎に金屬線に依り結束してコンクリートとの密着度を大ならしめ、尚竹片の内側には柿蓋等を塗布乾燥して腐蝕を防止したものである。

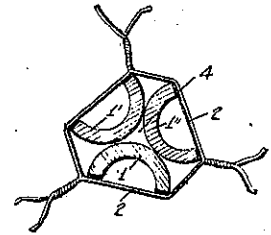


圖-3.

込式管接手の改良

(特許第134381號 發明者)
(特許権者) 滝川雅彦

屈曲的聯接に適合し、且つ重力に依るパッキングの編壓を防止し得るやうに考へたものである。即ち承口 (2) に對する挿口 (1) の關係位置を承口の先端附近の放射狀螺子群 (3) に依り任意に設定し得るやうにし、パッキングとしては普通の棒狀ゴム輪の代りに特に變形し易い翼狀パッキング (7) を使用し、翼片 (5) を水密用に翼片 (6) を氣密用に併せしめたものである (圖-4, 5)。

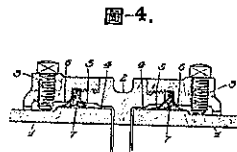


圖-4.

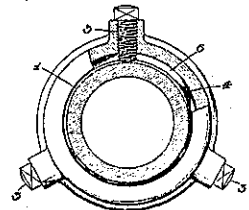


圖-5.

多段變速試錐裝置

(特許第 134412 號 發明者 本山郎重)
(特許權者) 利根ボ-リング

試錐機 (A) と捲揚機 (B) とを併設し、試錐管 (1) を試錐機に於ける捲胴 (2) に捲回した索條 (3) 及捲揚機 (B) に於ける捲胴 (4) に捲回した索條 (5) にて夫々懸吊せしめ、捲揚機に於ける調車軸 (7) と中間軸 (8) との間を 2 段以上に變速し得るやうに連絡し (圖-6)、又軸 (7) に 圖-7 に示す如き荷重計器付索條切斷防止裝

圖-6.

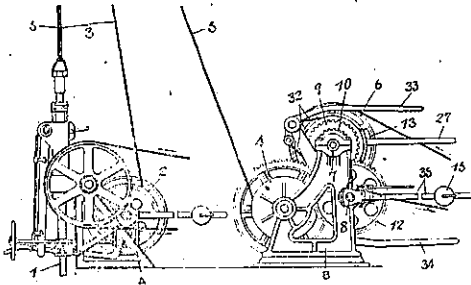
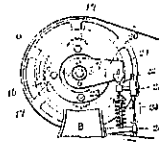


圖-7.



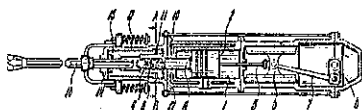
置並にディスク、クラッチ (13) を裝置すると共に中間軸 (8) にバンド、ブレーキ (14) 及ベラン、ウエイト (15) を裝置して深所掘進の場合に於ける試錐管の送り制御及捲揚等を確實ならしめたものである。

内燃機關による鑿岩機

(特許第 134425 號 發明者)
(特許權者) 郎世英

内燃氣筒 (1) に嵌合した吸鑿 (2) に、曲柄 (6) に連結される吸鑿杆 (3) と螺條 (8) を有する叩撃杆 (4) とを定着し、前記螺條 (8) に螺合する螺條筒 (9) によつて常に一方のみ廻轉する事の出来る廻轉筒 (13) に鑿を支持せしめ、其の鑿を叩撃杆 (4) によつて叩かしたものである (圖-8)。

圖-8.

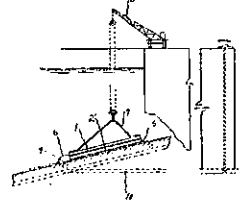


洗砂池等の排砂裝置

(特許第 134501 號 發明者)
(特許權者) 千葉彌太郎

池水を攪拌することなく沈砂池等の斜面に殘留し勝ちなる土砂を排出せしめるもの。平板 (1) の兩側面に水密なる側板を附し、上方に開閉自在とした開閉蓋 (5) を設け下方を水密裡に排砂管 (10) に連通せしめたものである。清掃に當つては捲揚機 (8) により平板 (1) を斜面上任意の位置に運び其の部分にある排砂孔 (10) 上に蓋 (6) を覆ひ、上方開閉蓋 (5) を開き、排砂管 (10) 中のバルブを開けば池水の水位による水壓により其の部分の排砂を爲すことができる (圖-9)。

圖-9.



コンクリート基礎杭の構成法

(特許第 134601 號 發明者)
(發明者) 和田貞治郎

(I) 先づ外管を地中に打込み、(II) 次いで管内にコン

圖-10.
本方法に依り築造せられたる杭正面圖

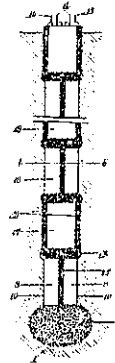


圖-11.
b-b 横断面圖



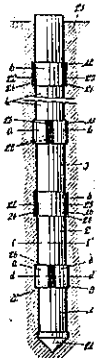
クリート弧片よりなる分割短筒を順次に落入して之を積重ね、(III) 内部にコンクリートを投入して外管 (2) を拔上げつゝコンクリートを叩し各分割弧片を孔中に於て擴張せしめる方法である (圖-10, 11)。

コンクリート基礎杭の構成法

(特許第 134602 號 特許權者)
(發明者) 同上

前述の構成法と殆ど同一であるが、異なる處は外管内に落入すべきコンクリート分割短筒 (6) を不分割長筒 (2) と交互に置いた點である (圖-12)。

圖-12.



セメント防水劑製造法

(特許第 134605 號 發明者)
(特許権者) 大瀧信四郎

黒鉛粉末をベントナイトと共に水に捏和して得たコロイド状溶液を珪藻土中に混和吸収させ之を粘着性を喪失しない程度に低温度に於て加熱焼成せしめる方法である。

鐵管接續方法

(特許第 134748 號 發明者)
(特許権者) 辻 康吉

承口 (1) 内の鉛止め三角形の周溝内面 (6) に鋼磁輪その他弾力性金屬輪 (5) を嵌込み此處に鉛を注入する方法である。上記の金屬輪を嵌込みたる爲、圓 (7) 内に相當する部分に注入せられた鉛は之に保熱を吸収せられ他の部分より速に冷却し硬度を強化して收縮作用に基く周溝内面に沿ふ (13) の如き間隙の生ずるを防止し、併せて管の屈曲に對しては (8) を中心點として運動し水密を保ち得る効果がある (圖-13)。

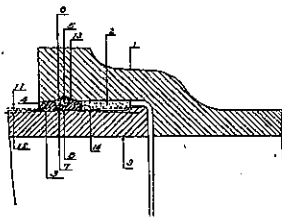


圖-13.

雪を構造物の材料として使用する方法

(特許第 134551 號 發明者)
(特許権者) 三友勇四郎

冬期雪を利用して之を假小屋或は橋梁擁壁等に 1 時的構造物の材料として簡単に經濟的に使用し得るやう考へたもので、抗張材 (竹又は粗朶等の纖維性のものにて適當な網の目状に造る) を雪中に挿入し撒水して雪を氷状として構造物の材料として使用するのである。

(附) 登録實用新案

基礎杭

(第 277691 號 公告 14 年第 14146 號)
(實用新案権者) 町田久吉

コンクリート杭の下端に放射状に分割せるコンクリート分割片を螺着し、適當深さに於て打込みに従ひ外方に擴開するやうにしたもの。

掘鑿及セメント乳注入装置

(第 277631 號 公告 14 年第 13669 號)
(實用新案権者) 利根宗一リンダ

管接手

(第 277788 號~91 號 公告 14 年第 14414 號~7 號)
(實用新案権者) 株式会社セメント

コンクリート杭築造装置

(第 278734 號 公告 14 年第 14003 號)
(實用新案権者) 箱根正彦

壓氣を利用して杭築造用管の内の地下水を排水管を通じて排除したる後、切替弁によりコンクリートを容筒内より管内に送給し得るやう設計したもの。

壓氣及打撃併用築造杭装置

(第 273025 號 公告 14 年第 14 45 號)
(實用新案権者) 同上

壓氣及打撃との併用とロープの助勢により套管を上下往復運動せしめつゝ上方に引抜き套管下端の突起及傾斜部分により凹凸杭を築造し得るやうにしたもの。